

続々・イノベーションのジレンマ

仲林 清

教育システム情報学会 会長, 千葉工業大学 情報科学部 教授

1970年代のマイクロプロセッサの出現とデジタル化の進展, 1990年代後半からのインターネットの普及というふたつのイノベーションは, 産業や社会のあり方を根本から変えるものとなった。これらのイノベーションの特徴は, その中核技術が何に使えるてどのような影響を及ぼすのか, 当初は, 予見不能なところにある。また, このようなイノベーションは「システムの設計」の意味や考え方を根本から変えてしまう。これらに続く新たなイノベーションとして, ここ数年, 人工知能が注目を集めているが, その影響はまだ定かではない。

本講演では, 過去のイノベーションがもたらしたものを振り返り, それに照らして人工知能がもたらす影響や可能性, 教育や学習の分野に与える示唆について議論のきっかけを提供したい。

講演者略歴

1982年 東京工業大学 理工学研究科 応用物理学専攻 修了。

2006年 早稲田大学 大学院 人間科学研究科 博士課程 修了。

NTT 情報通信研究所、NTT レゾナント、放送大学を経て、現職。NPO 法人 日本イーラーニングコンソシアム副会長。専門は、教育工学、技術標準化。